

## 「平成24事業年度に係る業務の実績に関する評価結果」における法人評価委員会意見への対応状況について

「平成24事業年度に係る業務の実績に関する評価結果」（広島県公立大学法人評価委員会・平成25年7月）において意見が付された小項目は、次の9項目であった。以下、項目ごとに、意見・指摘事項に対する平成25年度の対応状況を報告する。

区分	頁	意見・指摘事項	各担当部局における対応状況
教 育	7	<b>【複合科目の再編】 (No.5)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間文化学部において、年度計画の複合科目の具体的な再編実施に至らなかった。</li> <li>複合科目の再編については、第二期中期計画や今後の大学改革の動向等を踏まえつつ、学部内及び全学共通教育において、引き続き検討されたい。</li> </ul>	<b>【人間文化学部】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度より人間文化学部提供の複合科目を本来の学部共通専門科目として位置付けることとする。</li> <li>平成26年度中に、健康文化論・共生社会論・人間科学論について、各学科での扱いを検討する。</li> <li>複合科目の再編については、第二期中期計画や今後の大学改革の動向等を踏まえつつ、学部内においてはワーキングを組織して専門科目に位置付ける方向で引き続き検討している。</li> </ul> <b>【総合教育C】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「複合科目」は、平成27年度実施予定のソフト改革における全学共通教育の新プログラムにおいて、総合科目としての「学際性」を継承しつつ、「地域性」と「国際性」という観点（ねらい）をより鮮明に打ち出した「広島と世界」という新領域（科目区分）に発展的に移行させる方向で具体的な検討を進めている。</li> </ul>
		<b>【語学試験の受験促進】 (No.6)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>TOEIC, TOEFLや中国語, 韓国語検定試験の受験料支援等により受験を促進し、語学力の向上と資格取得のモチベーションを維持する取組を行っているが、受験状況等を分析し、さらなる受験率、得点の向上を目指していただきたい。</li> </ul>	<b>【人間文化学部】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明会や受験対策講座等を通じて恒常的に外国語検定等の受験促進と得点の向上を目指す。</li> <li>平成25年度より英語の科目においては学期ごとのTOEICの結果を成績に反映させる方式を導入した。これに伴い、受験促進が図られ、語学力の向上が期待される(2013.7.31受験者111名, 平均505.6点)。中国語検定においては4級・3級の受験促進が図られている。韓国語においても具体的な対応策を検討中である。</li> </ul>

区分	頁	意見・指摘事項	各担当部局における対応状況
	8	<p><b>【学生による授業評価の実施】(No.32, 44)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中間アンケートの実施状況について、組織的に把握、分析した上で、より質の高い授業の構築に努められたい。</li> </ul>	<p><b>【総合教育C】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施報告書に掲載する教員コメント記入欄に「履修者の反応を知るために学期中に実施した方法・その結果を踏まえた授業改善点」という項目を設け、中間アンケート等の結果を踏まえた授業改善点の記入を求めた。その結果、平成25年度前期は、コメントが提出された授業科目296のうち、中間アンケート実施科目数は39(13%)、中間アンケート以外の方法による科目数は82(28%)であった。合計すると121(41%)となり、中間アンケートの活用が定着しつつある。</li> <li>上記の「中間アンケート以外」の方法による意見等の聴取として、「出席カード」への質問・感想記入、「コメント・シート」「ミニッツ・ペーパー」「リアクション・ペーパー」などによるものを算入した。</li> <li>これ以外にも、ディスカッションやプレゼンテーションにおける反応や対話、机間巡視、小テストやレポートによる理解度把握など、様々な方法を通じて学生の反応を捉えようとする試みが見られた。</li> <li>他の教員が学生の反応をどう授業改善に活かしているかを知る意義は大きいと思われることから、冊子通読を広く呼びかけるとともに、授業改善に資する情報提供のより効果的な方策・あり方を検討中である。</li> </ul>
	9	<p><b>【キャリアセンターにおけるキャリア形成支援】(No.87)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題であった庄原キャンパスにおけるキャリアセンターの満足度については、アドバイザーへの助言・指導やセンター内の資料整備等を行った結果、46.7%から55.9%に上昇したところであるが、他のキャンパスの満足度と比べると、依然として大幅に低い状態にあり、要因分析を行い、対応を検討されたい。</li> </ul>	<p><b>【総合教育C】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアセンターの利用状況は改善しつつあるが、面接準備等の重要な場面で十分に活用されていない状況が見られた。就職ガイダンス等で利用方法や有益性についての情報提供を重ね、活用を促している。また、個別相談に加えて模擬面接(トレーニング)を適宜実施することとした。</li> </ul> <p><b>【生命環境学部】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学生が志望する職種や分野(医療、健康、バイオ、食品、化学工業、環境分析など)に関する専門的な支援が不十分との分析結果に基づいて、学部の専門教員の積極的な関与の必要性が指摘されている。今後は、フレッシュマンセミナー、キャリア教育の中で専門教員の関与・指導を考えることとしている。また、学部教員とキャリアアドバイザーやキャリア教育担当教員との連携を強化する必要がある。</li> </ul>

区分	頁	意見・指摘事項	各担当部局における対応状況
地域貢献	10	<p><b>【広島県との連携】(No.104)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後、「サテライトキャンパスひろしま」を魅力ある学びの場、交流の場とし、大学生はもとより、多くの社会人にも利用されるよう、県内他大学等をはじめ、産業界やNPO等との連携強化に努められたい。</li> </ul>	<p><b>【経営企画室】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「サテライトキャンパスひろしま」を広島県、教育ネットワーク中国、ひろしまNPOセンターとの連携のもと、平成25年4月にオープンした。</li> <li>オープン以来、平成25年度に「サテライトキャンパスひろしま」において、県内大学の学生を対象とした単位互換科目、社会人・学生を対象とした県補助事業の大学連携による新たな教育プログラム等の大学連携講座、県内各大学の講義・公開講座等を開講するとともに、学生団体の交流及び産業界・NPO等の団体による公益に資する各種研修会・報告会に利用されており、地域の教育、産学連携、学生・社会人の交流拠点として機能している。</li> </ul>
	11	<p><b>【留学に関する支援の充実】(No.124)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国人留学生59名に対し、海外留学者数は5名と低迷しており、今後、海外留学を促進するため、帰国後の学生に対する就職支援の充実や、海外留学に対する経済支援など、インセンティブとなる仕組みづくりについて検討していただきたい。</li> </ul>	<p><b>【国際交流室・総合教育C】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>留学先大学等で取得した単位の「単位認定」について、検討を開始した。</li> <li>経済的負担の大きい留学先に対する支援を充実させるため、既存の奨学金制度を拡充させる。</li> <li>留学先として希望者の多い英語圏の大学との交流協定締結を促進していく。</li> <li>長期留学への動機付けとして、海外留学スタートプログラムや、学生ニーズの高い欧米圏への留学先を拡充するための大学プログラムの新設等を行い、短期留学を促進する。</li> <li>就職支援については、帰国後、就職関連情報の提供などを個別にきめ細かに行っているところであるが、留学中においても情報提供に努めていくこととする。</li> </ul>
大学運営	13	<p><b>【給与制度の弾力的運用】(No.147)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給与制度の運用状況と実績等の給与への反映のあり方について、学内に「意見交換会」を置き、他大学の状況等の調査・研究を行っているものの、実際に給与制度の弾力的運用は行われていない。</li> <li>このため、給与制度の弾力的運用に向けた課題等を整理した上で、他大学における先行事例も参考として、今後の対応について検討されたい。</li> </ul>	<p><b>【総務課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>業績評価の給与反映について、平成28年度に試行実施することとし、これを目途に制度設計等を行うよう準備を進めている。</li> </ul>

区分	頁	意見・指摘事項	各担当部局における対応状況
		<p><b>【教員業績評価制度の導入】(No.152)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給与等への反映については、他の公立大学における導入状況等の調査にとどまり、実施方策の具体的な検討には至っていないことから、業績評価の給与等への反映に向けた検討を進められたい。</li> </ul>	<p><b>【総務課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>業績評価の給与反映について、平成28年度に試行実施することとし、これを目途に制度設計等を行うよう準備を進めている。</li> </ul> <p><b>【経営企画室】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度における給与等への反映を前提とした教員業績評価制度の見直しに係る実施計画を策定した。今後は、平成29年度を目途として、導入に向けた取組みを計画的に実施する。</li> </ul>